

防木ジャーナル

THE BOSUI JOURNAL

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

9

2012

No.490

特集

- ◆ 下水道コンクリート構造物の防食マニュアル改訂
- ◆ 無機系防水材料の採用メリットと適用範囲



構造スリットの漏水

鈴木 哲夫

コンクリートの建物には、柱の両脇などに意図的に設置した構造スリットがある(図-1)。構造スリットの役目は、建物の主要構造部分に応力を伝えないようにすることで、壁の全断面か、半分程度断面欠損している。その部分には、挙動を吸収する発泡体などが入っており、外部側をシーリングするが、地震のたびに応力を受けて破損しやすい。外見ではほとんど確認できないが、タイルなどが張られていると、縦シーリング化粧目地と合っていないこともあり要注意である。構造スリットは、図-2のように雨水が浸入すると最下部の水平打継ぎ目地に辿り着き、漏水する。

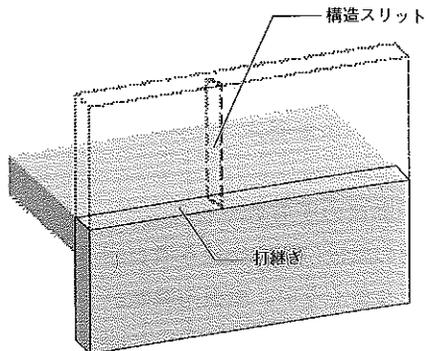


図-1 打継ぎ目地と構造スリットの模式図

外壁が塗装仕上げの場合は、構造スリットの位置を確認しやすいが、外壁がタイル張りの場合は、写真-1のようにタイルの裏に隠れていることがある。外観で見える目地が構造スリットとは限らないので注意したい。

写真-2は、構造スリットの表面にシーリングがなく、モルタル詰めされていた例で、スリットの両側は、肌別れしたひび割れがあり、この状態では雨水が浸入して漏水するのはあたり前である。また、スリット材が最下部まで届いておらず、コンクリートの回りが悪くなって空洞ができていた。水平目地との交差部分は、掘削確認することが好ましい。

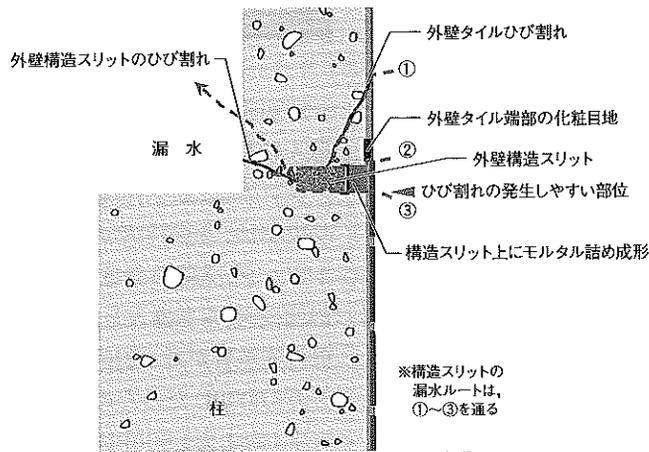


図-2

建物の構造的な配慮から、壁の構造スリットは水平打継ぎ目地と接続するので、水平打継ぎ部の不具合だけではなく、構造スリットに浸入した雨水が流下して水平打継ぎ目地に供給される場合もある。近傍の縦横目地のシーリングを撤去して裏側の湿り具合を辿っていくと漏水ルートを確認できる。構造スリットから打継ぎ目地および柱の打継ぎに雨水が供給されていたことを突き止めたことがあるが、構造スリットを直さないと漏水を止められなかった。

構造スリットの設置は、通常外側に取り付けるが、これを逆に設置(室内側)している場合がある。この場合は、外部の躯体にひび割れが発生し漏水する。

(注)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役

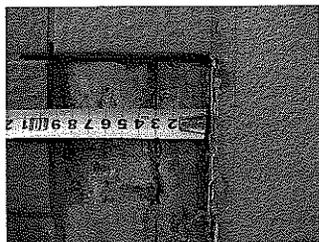


写真-1 タイル裏に隠れた構造スリット



写真-2 構造スリットと水平打継ぎ目地直交部の空洞